

インタラクティブ・アプローチ(双方向型)

作成時間 **60分以内**

単元構想

単元構想とは、1時間1時間の学習につながりを持たせ、単元全体で身に付けなければならない力を明確にして必要な情報を「見える化」したものである。従来の単元指導計画では、情報量も多く作成や読み取りに時間がかかるという課題が見られた。

単元構想では、単元の**導入と終末を双方向**に行き来しながら単元指導計画に必要な情報のみを書き込むことで従来の課題を解決し、さらに教材研究を深めていくことができる。

9 単元構想

- (1) 本単元につながる既習の内容
 ・いろいろなかたち (1年生) ・かたちづくり (1年生) ・三角形と四角形 (2年生)

他の単元との系統性を見る
 領域とのつながりを見る

(2) 指導計画 全5時間

④	①課題設定	②はこの形	③はこづくり (本時)	④はこづくり	⑤習熟
②	□めあて はこの形をしらべよう。(関)	□めあて はこの形の辺やちょう点についてしらべよう。(知)	□めあて 工作用紙をつかって、はこの形をつくらう。(考)	□めあて ひごとねんど玉をつかって、はこの形をつくらう。(技)	□めあて 練習問題を解こう。(考)
③	□問題 箱の面は、どんな形がいくつあるか調べよう。	□問題 辺やちょう点は、いくつずつありますか。	□問題 工作用紙に面の形をかきましよう。切りとった面と面をテープでつなぎあわせて、組み立てましよう。	□問題 どんな長さのひごが何本ずつありますか。ねん土玉は、何こありますか。	□問題 P.97 「たしかめましよう」
	□振り返り はこの面はぜんぶで6つあることが分かった。面は、長方形や正方形の形をしていることが分かった。	□振り返り はこの形には、辺が12、ちょう点があることが分かった。 <u>はこには、同じ形の面があることが分かった。はこを調べるとき、同じ形の面を見つけようと思</u>	□振り返り 面と面をつなぐと箱ができた。まずは、その面を決めてから組み立てるとやりやすいことが分かった。 <u>はこを作るとき、同じ形の面を集めるとできる。</u>	□振り返り ひごとねんど玉をつかって箱をつくることができた。ねんど玉は8こでちょう点と同じ数ということが分かった。ひごの数は、はこの形によってちがうことが分かった。	□振り返り はこには、面や辺やちょう点があり、それらの数をたしかめることができた。 はこの形がつかないわけをせつめいすることができた。

※評価の観点 (関) 算数への関心・意欲・態度 (考) 数学的な考え方
 (技) 数量や図形についての技能 (知) 数量や図形についての知識・理解

メタ認知につながる記述

(3) 本単元で身に付けたことを確かめる問題

(課題)
 はこの形をつくらうとして、右の6つの面を使いましたが、うまくできませんでした。そのわけをせつめいしましょう。

あ い う え お か

(評価)
 はこの形の構成要素(面、辺、頂点)を確認した上で、説明することができる。

作成のポイント

- ① 単元の系統を調べ、学習内容を時系列に表します。
- ② 本時の「めあて」と中心的に扱う問題を書きます。
- ③ 振り返りを書きます。振り返りには、本時で児童に書かせたい内容を想定して書きます。その際、「今日のつぎやき」(メタ認知的知識)が表れてくる記述になれば効果的な授業になったと判断できます。
- ④ 各時間と単元全体で身に付けなければならない力を考えながら、**双方向(入口と出口)**に授業を組み立てていきます。
- ⑤ 単元で身に付けたことを確かめるための問題(発展的な問題、今までの知識を活かして考える複合的な問題)を書きます。